# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査　9 月鳥類調査　速報

●実施状況

令和 8 年 9 月 10 日に鳥類調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が 10:30（29cm）、満潮は 3:53（199cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

| | 葛西人工渚(東なぎさ) | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 |
|---|---|---|---|
| 調査時刻 | 11:54-13:13 | 9:43-10:41 | 8:07-9:22 |
| 調査時間(分) | 79 | 58 | 75 |
| 天候 | 曇り時々雨 | 曇り時々雨 | 雨→曇り |
| 気温(℃) | 22.0 | 20.6 | 20.4 |
| 風向 | 北 | 北 | 北 |
| 風速（m/sec） | 2.0 | 3.0 | 2.5 |
| 備考 | ヨシ原の際に大量の泥が堆積していた。護岸にナガエツルノゲイトウの塊が多数漂着していた。 | 最干潮時刻に干潟は広く干出していた。船舶の往来が多かった。 | 開始時は雨が降っていたが、海浜公園に到着した頃に止む。公園側に人はほとんどいなかった。 |

●主な出現種等

| | 葛西人工渚(東なぎさ)<br>※沖合含む | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 |
|---|---|---|---|
| 数が多かった鳥類上位 3 種 | ウミネコ(516 羽) | カワウ(874 羽) | カワウ(1525 羽) |
| | カワウ(246 羽) | ウミネコ(105 羽) | アオサギ(49 羽) |
| | トウネン(36 羽) | アオサギ(28 羽) | イソシギ(22 羽) |
| 備考 | ・ヒクイナ、トウネン、ウミネコ、オオセグロカモメ、コサギ等、重要種として 10 種を確認。<br>・シギ・チドリ類は 3 種を確認。トウネンが干潟で採餌、タシギが休息、イソシギは鳴き声のみ。<br>・干潟でカワウ、カモメ類が休息。サギ類は採餌と休息の両方が見られた。<br>・ヨシ原でヒクイナの鳴き声を確認。<br>・トビが上空を飛翔。沖合でミサゴが杭にとまって採餌。 | ・ウミネコ、オオセグロカモメ、チュウサギ、コサギ等、重要種として 7 種を確認。<br>・シギ・チドリ類はイソシギ 1 種のみ。<br>・サギ類はアオサギが多く、他にダイサギ、チュウサギ、コサギを確認。サギ類は採餌と休息。<br>・干潟でカワウが休息。カモメ類は 4 種で、主に休息。ウミネコが少数採餌。<br>・トビが多く、羽田空港側のフェンスで休息。 | ・コサギ等、重要種として 4 種を確認。<br>・カワウの個体数は第六台場 541 羽、鳥の島 976 羽、お台場海浜公園 8 羽、合計 1525 羽。通過個体が多かった。繁殖は終了していた。<br>・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギを確認。第六台場での繁殖は終了していた。<br>・シギ・チドリ類はイソシギ 1 種のみ。<br>・カモ類はカルガモ 1 種を、お台場海浜公園で確認。<br>・トビが上空を飛翔。 |

## ●出現種と個体数

| No. | 目 | 科 | 種名 | 令和8年 9月 | | | | | | | | | 重要種 選定基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 葛西人工渚(東なぎさ) | | | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 | | | | 3地点合計 | 文化財保護法 | 種の[*1]保存法 | 環境省[*2] RL2026 | 東京都[*3] RDB2023(区部) |
| | | | | 範囲内 | 沖合 | 合計 | | 第六台場 | 鳥の島 | 公園側 | 合計 | | | | | |
| 1 | カモ | カモ | カルガモ | | | | 3 | | 6 | 10 | 16 | 19 | | | | |
| 2 | ツル | クイナ | ヒクイナ | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | | NT | CR |
| 3 | チドリ | シギ | トウネン | 36 | | 36 | | | | | | 36 | | | NT | VU |
| 4 | | | タシギ | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | VU |
| 5 | | | イソシギ | 1 | | 1 | 10 | 1 | 12 | 9 | 22 | 33 | | | | VU |
| 6 | | カモメ | ユリカモメ | 1 | | 1 | 7 | | | | | 8 | | | | |
| 7 | | | ウミネコ | 516 | | 516 | 105 | | 1 | 3 | 4 | 625 | | | VU | 留 |
| 8 | | | セグロカモメ | 1 | | 1 | 1 | | | | | 2 | | | | |
| 9 | | | オオセグロカモメ | 111 | | 111 | 2 | | | | | 113 | | | EN | |
| 10 | カツオドリ | ウ | カワウ | 246 | | 246 | 874 | 541 | 976 | 8 | 1525 | 2645 | | | | |
| 11 | ペリカン | サギ | アオサギ | 23 | | 23 | 28 | 7 | 24 | 18 | 49 | 100 | | | | |
| 12 | | | ダイサギ | 18 | | 18 | 6 | | | 1 | 1 | 25 | | | | NT |
| 13 | | | チュウサギ | | | | 2 | | | | | 2 | | | NT | NT |
| 14 | | | コサギ | 9 | | 9 | 2 | | | 2 | 2 | 13 | | | VU | VU |
| 15 | タカ | ミサゴ | ミサゴ | | 1 | 1 | | | | | | 1 | | | | EN |
| 16 | | タカ | トビ | 1 | | 1 | 27 | | 5 | | 5 | 33 | | | | NT |
| 17 | スズメ | セキレイ | ハクセキレイ | 5 | | 5 | 10 | | | | | 15 | | | | |
| 計7目9科17種 | | | | 14 種 | 1 種 | 15 種 | 13 種 | 3 種 | 6 種 | 7 種 | 8 種 | 17 種 | 0 種 | 0 種 | 6 種 | 10 種 |

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会,2024)に従った。

*1　文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2　種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3　環境省 第5次レッドリスト(2026)：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4　東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

＜葛西人工渚(東なぎさ)＞

〇調査地点の状況

干潟は広く干出し、調査中に徐々に狭まってきた。



西側の地点より南西方向を見る




〇出現種(シギ・チドリ類)

種数は合計 3 種と少なかった。トウネンの小群が干潟で採餌。タシギが護岸の草地で休息していたほか、イソシギの鳴き声が聞かれた。トウネンは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。また、トウネン、タシギ、イソシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



トウネン



タシギ

〇出現種(ヒクイナ)

ヨシ原内の 2 か所からヒクイナの鳴き声が聞こえた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。

〇出現種(タカ類)

沖合の杭にとまって魚を採餌するミサゴと、上空を飛翔するトビが確認された。トビは護岸にとまって休息する様子も観察された。東京都レッドデータブックでミサゴは絶滅危惧ⅠB 類(EN)、トビは準絶滅危惧(NT)に指定されている。



トビ



ミサゴ

〇干潟利用状況

カワウ、カモメ類(ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ)、サギ類(アオサギ、ダイサギ、コサギ)の群れが干潟で見られた。カワウは干潟の東側に集まって休息していた。カモメ類は海上から干潟に断続的に飛来したほか、干潟で休息していた群れが一斉に飛び立ち移動する様子が見られた。サギ類は波打ち際や護岸沿いに多く、採餌と休息の両方が見られた。カモメ類のうち、ウミネコは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで留意種に、オオセグロカモメは環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。



干潟で休息するカワウとアオサギ（矢印）



干潟から飛び立ったカモメ類の群れ

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

最干潮時刻で、干潟が広く干出していた。






〇出現種（シギ・チドリ類）

イソシギが護岸で主に採餌していた。



〇出現種（タカ類）

トビが 27 羽確認された。羽田空港側のフェンスにとまって休息する個体が多く、干潟の上空を飛翔する個体も見られた。



〇出現種（カモメ類）

ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメの 4 種が確認され、主に干潟で休息していた。




〇出現種（サギ類）

4 種が確認された。個体数が多かったのはアオサギで、28 羽が主に干潟で休息していた。このほか、干潟でダイサギとコサギが採餌し、チュウサギが休息していた。ダイサギは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧（NT）、チュウサギは環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで準絶滅危惧（NT）、コサギは環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。




〇干潟利用状況

カワウの個体数が多く、合計 874 羽が見られた。カモメ類が干潟の高い部分で休息し、ウミネコは一部採餌する個体も見られた。サギ類は干潟全体に広く分布し、採餌・休息する様子が見られた。

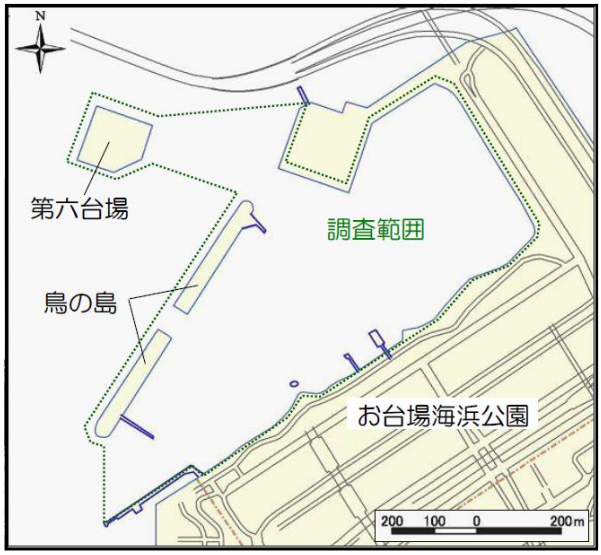


＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島では、カワウの営巣は終了していた。






○出現種（カワウ）

第六台場、鳥の島のいずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。カワウの個体数は第六台場に 541 羽、鳥の島に 976 羽、お台場海浜公園に 8 羽、合計 1525 羽であった。このうち 910 羽は調査地北西部から群れで飛来し、一部は鳥の島付近に降りたように見えたが、長時間滞在せずに飛び去った。


鳥の島に降下するカワウの群れ

○出現種（サギ類）

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認された。個体数はアオサギが 49 羽と多く、主に護岸で休息していた。ダイサギは 1 羽、コサギは 2 羽で、どちらもお台場海浜公園の護岸で採餌していた。




○出現種（シギ・チドリ類）

イソシギ 1 種が確認された。鳥の島からお台場海浜公園の護岸に多く、合計 22 羽が見られた。



○出現種（カモ類）

カルガモ 16 羽がお台場海浜公園の護岸付近で休息していた。噴水施設の上で休む個体も見られた。



○出現種（タカ類）

トビ 5 羽が鳥の島付近を飛翔し、時折樹上や護岸にとまる様子が見られた。



＜その他＞

砂町運河で確認されたウミネコは、周辺の構造物にとまる 4 羽のみで、今季の繁殖は終了したと考えられる。なお、京葉線の高架にカワウ 166 羽がとまっていたほか、周辺でアオサギ 1 羽が確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ

＜トピックス＞

-移動途中の記録-

葛西人工渚の調査開始前に、北側の範囲外にある干潟で 6 羽のアマサギが確認された。過去の本調査におけるアマサギの記録は少なく、平成 27 年度に葛西人工渚、平成 29 年度に葛西人工渚と森ヶ崎の鼻で確認されたのみである。葛西臨海公園および葛西海浜公園の鳥類についてまとめた資料（鈴木ら 2014）によれば、本種は旅鳥として時々観察されるとの事で、今回見られた個体も一時的に立ち寄ったものと考えられる。



浅瀬に立つアマサギの群れ



右端の 1 羽はオレンジ色の夏羽を多く残している

鈴木弘行・中村忠昌・川原章・川原光子, 2014. 葛西鳥類目録 Ver.1—葛西臨海公園・葛西海浜公園の鳥 1994 年～2013 年—. 日本野鳥の会東京, 東京.